

\* 堺教会CS新聞「いずみのひろば」は家族の人と一緒に読んで下さい。

# いずみのひろば

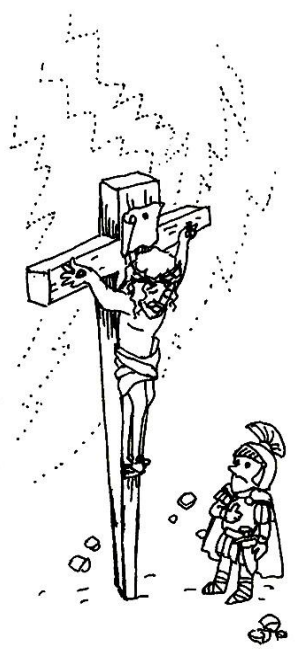
オリブ山でのいのり

ルカによる福音書 二二章三九節〜四六節

イエスさまは、いつも夜になるとオリブ山という名前の丘に登っておいのりをされました。でも、今日のイエスさまはなんだか大変そうですよ。おいのりをしているイエスさまから汗がばたばたと地面に落ちていきます。そして、ハア、ハアといって、とても苦しんでおられるようです。いったいイエスさまは何をいっておられるのでしょうか？実は、これからおこる十字架のことにについておいのりしておられるのです。イエスさまはこういられました。

「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください」。イエスさまは前から、鞭で打たれて死ぬこと、そして三日目に復活されることを預言しておられました。十字架で死ぬことは恐ろしいことです。服をぬがされてトゲトゲのついた鞭で何度も打たれて、茨の冠を頭にかぶせられ、最後は大きなくぎで手と足を十字架に打ちつけられるのです。イエスさまといえども、十字架で死ぬということは、できたらそうならずにすむようにしてほしいと願うほどに恐ろしく、つらいことなのです。でも、イエスさまは「わたしの願いではなく、御心のとおりにしてください」とおいのりされました。

2019年4月号  
日本基督教団  
堺教会  
教会学校  
No.485



そしてこのおいのりのあと、イエスさまは十字架へと進んでいかれるのです。イエスさまが十字架で死んでくださったおかげで、わたしたちはみんな助かりました。イエスさまの十字架は、わたしたちに三つのことを教えてくれます。一つ目は、わたしたちの悪い心(罪)は、わたしたちが十字架にかなければならないほど悪いということです。二つ目は、でもイエスさまが十字架にかかってくださったので、わたしたちはみんな助かったということです。そして三つ目は、神さまの御心です。イエスさまが「わたしの願いではなく、御心のとおりにしてください」とおいのりされた神さまの「御心」とは、愛するひとり子イエスキリストを十字架につけてまで、わたしたちの罪をゆるすことなのです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るためである(ヨハネによる福音書三章一六節)」。それほどまでに神さまはわたしたちを愛してくださっています。それほどまでにわたしたちは神さまに愛されているのです。

(おはなし ゆたに かずしげ先生)